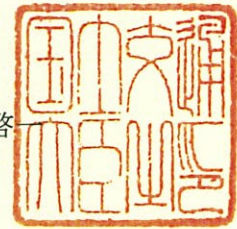


# 認定書

国住指第 1031 号  
令和元年 8 月 20 日

J F E 建材株式会社  
代表取締役社長 久保 亮二 様

国土交通大臣 石井 啓



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
FP120FL-0194
2. 認定をした構造方法等の名称  
普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ・単純支持）
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

## 1. 構造名

普通コンクリート・デッキプレート造床(合成スラブ・単純支持)

## 2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
床 厚	80 以上
荷重と支持間隔の 関係	・支持間隔 3, 200～3, 600 の場合 自重を含めた全荷重(w)×支持間隔(L)の2乗=131.6kN 以下 (一般的な支持間隔と荷重を表-1 に示す。)
支 持	単純支持

注) 全荷重=固定荷重+積載荷重

## 3. 構成材料

## 1)主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
1)デッキプレート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3352(デッキプレート)</li> <li>・厚 さ 1.0、1.2、1.6</li> <li>・山 高 さ 75<sub>±1.5</sub></li> <li>・働 き 幅 300<sub>-2+8</sub>、600<sub>-2+8</sub></li> <li>・形状寸法 別添-6 参照</li> <li>・種 類 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1)SDP1T(厚さ 1.2、1.6 に限る) (2)SDP1TG(厚さ 1.2、1.6 に限る) (3)SDP2 (4)SDP2G (5)SDP3</li> </ul>
2)コンクリート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種 類 普通コンクリート</li> <li>・呼び強度 18～45</li> <li>・厚 さ デッキプレート山上から 80 以上</li> </ul>

項 目	仕 様
<p>3 ひび割れ拡大 防止用鉄筋</p>	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)溶接金網</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3551</li> <li>・種 類 (イ)～(チ)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> <li>(イ)WFP</li> <li>(ロ)WFC</li> <li>(ハ)WFR</li> <li>(ニ)WFI</li> <li>(ホ)WFP-D</li> <li>(ヘ)WFC-D</li> <li>(ト)WFR-D</li> <li>(チ)WFI-D</li> </ul> </li> <li>・線 径 6 以上</li> <li>・間 隔 100 以下×100 以下</li> <li>・かぶり厚さ 床上面から 30</li> </ul> <p>(2)鉄筋(異形鉄筋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3112 又は JIS G 3117</li> <li>・断面寸法 D10 以上</li> <li>・間 隔 200 以下×200 以下</li> <li>・かぶり厚さ 床上面から 30</li> </ul>
<p>4 耐火補強筋</p>	<p>鉄筋(異形鉄筋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3112 又は JIS G 3117</li> <li>・種 類 SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490, SDR295, SDR345</li> <li>・断面寸法 D13 以上</li> <li>・間 隔 300(デッキプレート溝部中央)</li> <li>・かぶり厚さ デッキプレート溝部底面から 40</li> </ul>

## 2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
①スパーサー	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)鉄材 ・線径、板厚 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径、板厚以上 ・間 隔 1000 以下 (2)セメントブロック ・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 ・間 隔 1000 以下
②梁と床版の 接合方法	頭付きスタッド ・規 格 JIS B 1198 ・寸 法 $\phi 16$ 以上 $\times\phi 110$ 以上 ・間 隔 300 以下
③梁とデッキ プレートの接合 方法	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)アークスポット溶接 (2)すみ肉溶接

表-1 一般的な支持間隔と荷重

支持間隔(mm)	自重を含めた全荷重(kN/m <sup>2</sup> )
3200 以下	12.85 以下
3300	12.08 以下
3400	11.38 以下
3500	10.74 以下
3600	10.15 以下

注) 支持間隔が表の中間の値の場合は  $WL^2=131.6\text{kN}$  以下であることを  
確認すること

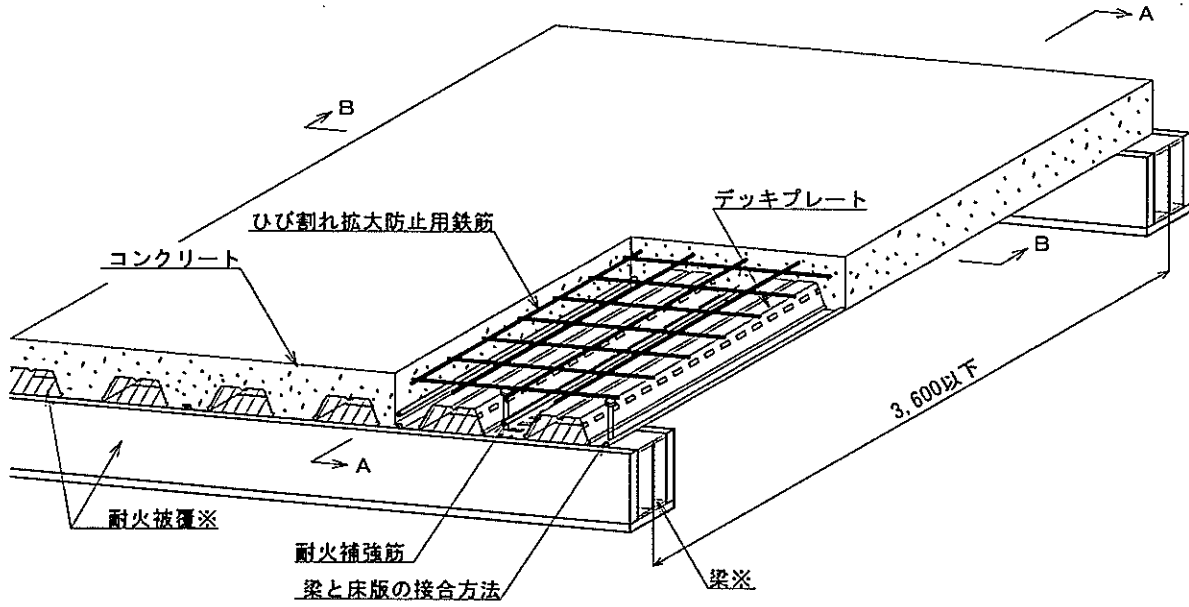
W : 自重を含めた全荷重(kN/m<sup>2</sup>)

L : 支持間隔(m)

4. 構造説明図

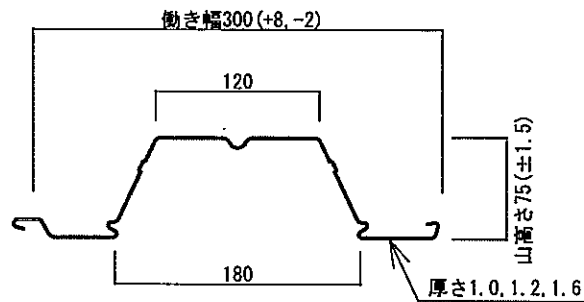
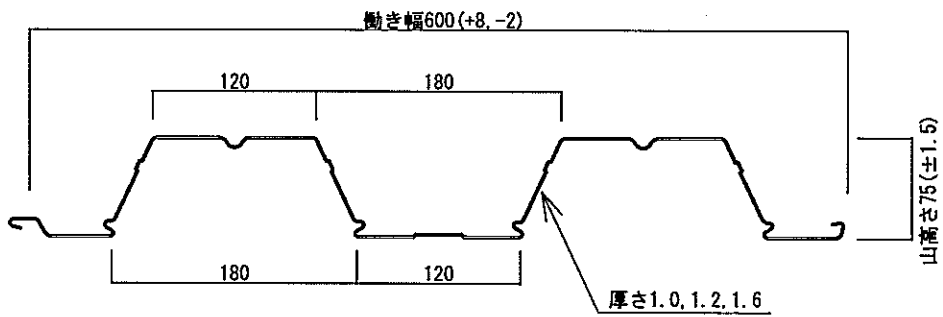
[透視図]

(寸法単位：mm)



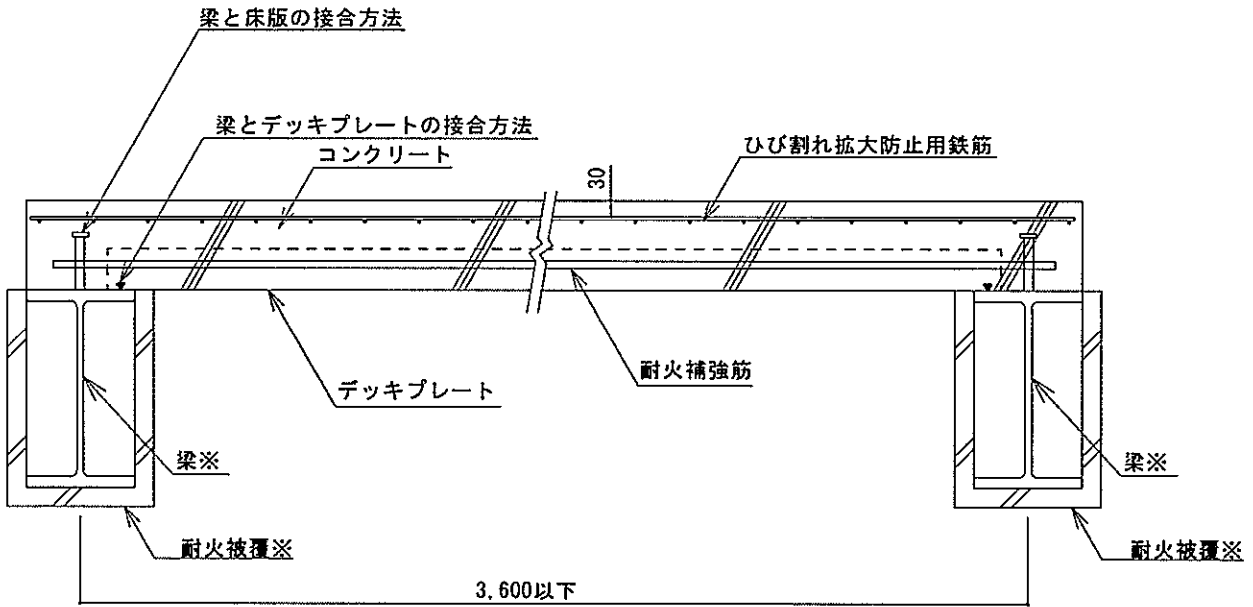
[デッキプレートの形状・寸法]

(寸法単位：mm)

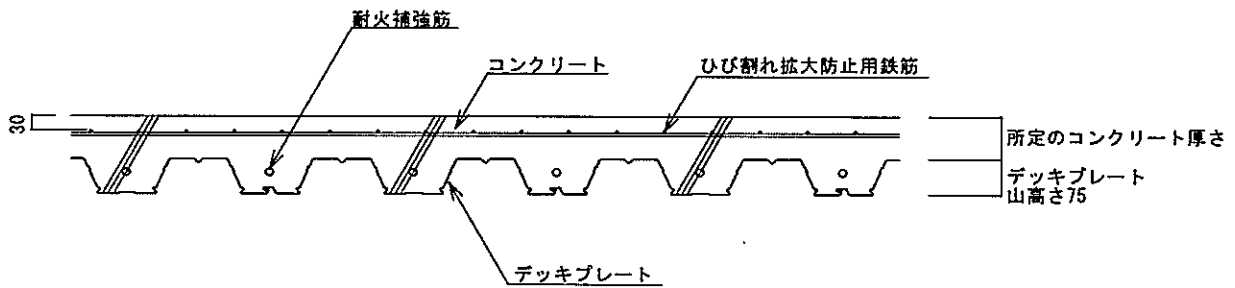


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※：本評価内容に含まない



A-A 断面図



B-B 断面図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※：本評価内容に含まない

## 5. 施工方法等

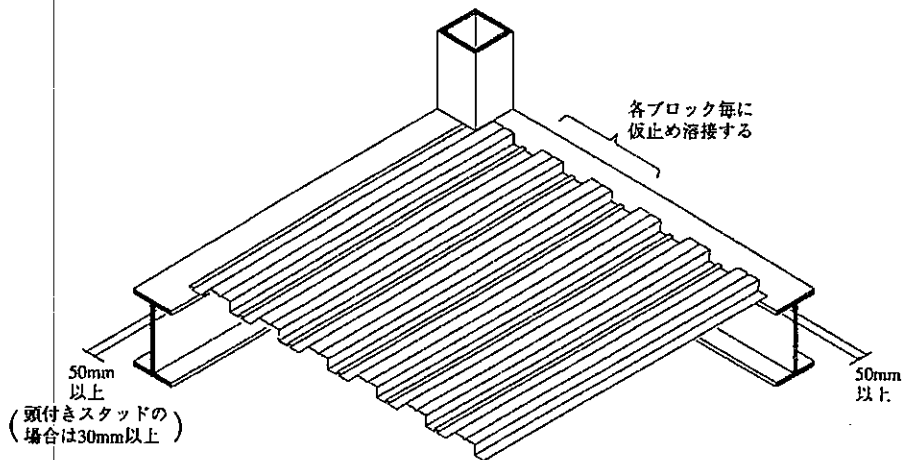
### <施工図>

#### 4. 構造説明図と同じ

### <施工手順>

#### 1) デッキプレートの敷込み

支持梁の墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数間隔(5~10枚)毎に仮止め溶接する。デッキプレートの小口はコンクリート漏れ止めの処置を行う。

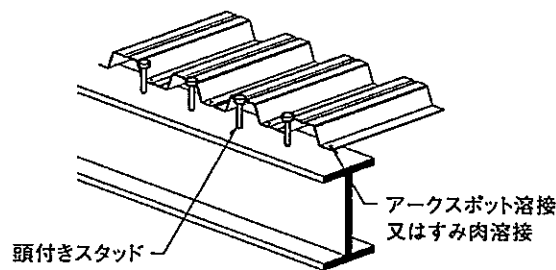


#### 2) 合成スラブと梁との接合

合成スラブと鉄骨梁とは、頭付きスタッドで接合する。

デッキプレートの溝部で頭付きスタッドを接合する場合は、各溝に1本以上接合する。

デッキプレートと鉄骨梁とは、頭付きスタッドの施工前に、すみ肉溶接、アークスポット溶接等で接合する。



#### 3) デッキプレート相互の接合

デッキプレート相互の接合は、嵌合・溶接・ビス等により構造上・耐火上有効に行う。

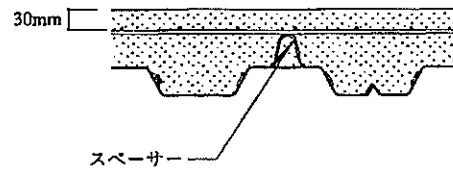
#### 4) 耐火補強筋の設置

耐火補強筋はデッキプレートの各溝部中央、溝部の底面から40mmの位置に配筋する。スペーサーは1.0m以下のピッチで配置する。



#### 5) ひび割れ拡大防止用鉄筋の設置

溶接金網はスラブ上面より 30mm のかぶり厚さを確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。スペーサーは 1.0m 以下のピッチで用いる。異形鉄筋を用いる場合は D10 以上をタテ、ヨコ間隔 200mm 以下で、スラブ上面より 30mm のかぶり厚を確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。配筋の詳細は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて、特記（例えば、構造評定や性能証明を取得した工法等）によるか、または、JASS5 の記載例による。



#### 6) コンクリート打設

溶接金網または異形鉄筋が移動しないように注意しながら、コンクリートを不陸なく打ち込む。コンクリートの施工については「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて行う。

#### 7) 仕上げ

原則としてコンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

#### 8) 養生

コンクリート打込み後の養生は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて行うが、初期には湿潤養生を行い、十分な養生期間をとるよう留意する。

#### 9) 梁の耐火被覆

梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて梁が露出しないように適切な耐火被覆を施す。